

## 私の描く理想の技術者像

私には今のところ具体的な目標というものが無い。その具体的な目標を模索している最中だ。しかし、漠然と技術者になりたいとは思っている。私の学んだことを十二分に生かし、尚且つ現代社会の幅広い分野に貢献できる、そんな理想的な立場にあると考えたからだ。そこで、私のなりたいと思う理想の技術者の姿というものを以下に示していきたいと思う。目標となるべき姿を漠然とでも見据えることはその実現の第一歩になると考えるからだ。

第一に社会的に認められる倫理を持つという事が挙げられる。技術というものは社会に対し良くも悪くも与える影響が大きい。コンピュータウイルスや他人の無線ルータの無断使用、ファイル共有ソフトによる企業の商品データが無料で獲得出来てしまうなど身近な例を挙げるだけでもこれだけのものがある。技術者にはそういった技術のいわば最先端に立つ者としての責任がある。故に、技術を開拓、使用する者として社会的に認められる人格やモラル、倫理を持つことが必要だと考える。小学校や中学校で道徳の授業があったがそれを受けた自分としては少し御座りな授業な気がしてならなかった。受ける側である私の方にも問題があったのかもしれないがビデオを見せられて終わりというような授業では自らと社会との繋がりがまた、自己意識の認識といったものが出来ないように思う。私は大学で哲学を履修してから自分というものや生き方といったものについて考えるようになった。だから、一層そう思うのかもしれない。

第二にコミュニケーション能力の高さを挙げる。我々人間は技術者云々に関わらず社会に支えられて生きている。個人で起こせることなど微々たるものでしかなく集団で行動することがいかに影響力を持つかを知っている。その集団で行動する際に必要となるのがコミュニケーション能力であるのは言うまでもないことだ。確かに集団の中には自分が気に入らないと思う人や理解できないという人がいるかもしれないし、衝突は避けられないかもしれない、しかし、そこで諦めてしまったりは他人と関わることなどできない。大事なものは衝突を恐れずに広く人を認めるということである。私はこれがまだまだ出来ていないと自覚している。私は了見が狭い人間であるが多くの人と関わる機会のある大学という場に在籍しているのだからこの与えられた機会を生かし多くの性格の人と友達になりたいと思う。

第三に自らの実現させたいことを明確に見定めそれがいかに社会に対し貢献できるかといったことを考えることである。目的意識を明確に持つことが自分の活力または原動力になり目的達成への壁を壊すものと私は信じる。惰性による仕事や行動ではよりよいものはできるはずは無いからだ。さらにはいかにその目的達成の結果が社会に貢献できるかも重要だ。社会の援助によって技術研究が成り立つ以上はこれらの結果を社会に還元する必要があるからだ。実現させたいことを見つけるのは早ければ早いほどいい。人生における時間とは有限なのだから。

以上のことはすべて社会と自分との関係をしつこく言及してきた。我々は個人として生きているが、総体である社会に守られ、育てられている。だからこそ、自分と社会の関係

を深く意識すべきだと思う。集団としての力を最大限発揮できるよう一人一人が意識すべきだと考える。私が目指す理想の技術者とはそういったものの事を指すのだ。